

## 1 学校運営の中期目標

**現状と課題**

本校は「みんながつくる みんなの学校 大空小学校」を合言葉に、教職員・保護者・地域が一体となって、すべての子どもの学習権を保障する学校づくりに取り組んできた。その中で「4つの力（人を大切にする力・自分の考えを持つ力・自分を表現する力・チャレンジする力）」の育成を大空の教育の中心に据え、ペア学年道徳・全校道徳の実施や年3回のコンサート、保護者や地域の方とともに活動するオープン講座等、特色ある教育の実践を進めてきた。将来の予想が難しい社会において、よりよく生きるための基盤となる道徳性や多様な価値観を養うために「4つの力」の育成は必要不可欠であり、よりきめ細かな指導及び支援体制のあり方について検討を重ねている。

また、ここ数年、校区外または他都市からインクルーシブな教育環境を求めて、支援が必要な児童や学校へ通いづらい子ども等の転入が後を絶たない状況であることから、ICT 機器を活用した個別最適な学びの保障に全校で取り組んでいる。

他の地域から本校に通いたいと思う児童・保護者が増えることは本校の取組の成果と言えるが、一方、支援を必要とする児童の比率が非常に高い状況は続いている。また、居住地の子どもが他校を選択するケースが年々増加している現状も大きな課題である。全ての子どもたちがいきいきと落ち着いて学習に取り組むことで学びを深め、個別最適な学びと協働的な学びの実現に向け検討を重ねながら、本校の取組について広く発信・周知していく必要がある。

**中期目標****【安全・安心な教育の推進】**

- 令和7年度の小学校学力経年調査における「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を85%以上にする。
- 毎年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度末より減少させる。
- 毎年度末の校内調査において、前年度末の不登校児童の改善の割合を増加させる。
- 令和7年度の小学校学力経年調査の「自分にはよいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を77%以上にする。

**【未来を切り拓く学力・体力の向上】**

- 令和7年度の小学校学力経年調査の「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の項目について、最も肯定的に答える児童の割合を39.5%以上にする
- 令和7年度の小学校学力経年調査における国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も1.00以上にする。

- 令和 7 年度の小学校学力経年調査における算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も 1.00 以上にする。
- 令和 7 年度の小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 90%以上にする。
- 令和 7 年度の小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 84%以上にする。
- 令和 7 年度の小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的に回答する児童の割合を 68.0%以上にする。

#### **【学びを支える教育環境の充実】**

- 令和 7 年度末の校内調査より、授業日において児童の 8 割以上が学習者端末を活用した日数が、年間授業日の 55%以上にする。
- 令和 7 年度の第 2 期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準 1 を満たす教職員の割合を 65%以上にする。

#### **【その他】**

- 令和 7 年度の「子どもアンケート」で、『いのちを守る学習』を通して、自分の命は自分が守る力がついている」に対して、最も肯定的な「そのとおりだと思う」と回答する児童の割合を 73%以上にする。
- 令和 7 年度の「子どもアンケート」で、「人を大切にする力がついている」に対して、最も肯定的な「そのとおりだと思う」と回答する児童の割合を 60%以上にする。
- 令和 7 年度の「保護者アンケート」（学校評価・外部アンケート）で、「自分はサポーターの一員として、大空小をつくっている。」に対して、肯定的に回答する保護者の割合を 55%以上にする。

## 2 中期目標の達成に向けた年度目標

### 【安全・安心な教育の推進】

- 小学校学力経年調査における「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を83%以上にする。→(76.1%)
- 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度末より減少させる。  
→(昨年度 1.85→今年度 3.43)
- 年度末の校内調査において、前年度末の不登校児童の改善の割合を増加させる。  
→(昨年度 100%→今年度 100%)
- 小学校学力経年調査の「自分にはよいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を75%以上にする。→(66.6%)

### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 小学校学力経年調査の「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の項目について、最も肯定的に答える児童の割合を39%以上にする →(38.2%)
- 小学校学力経年調査における国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も0.01p向上させる。→(4年:-0.02 5年:-0.09 6年:-0.03)
- 小学校学力経年調査における算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も0.01p向上させる。→(4年:0.01 5年:-0.16 6年:-0.03)
- 小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を87%以上にする。→(84.3%)
- 小学校学力経年調査における「外国語(英語)の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を82%以上にする。→(73.4%)
- 小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的に回答する児童の割合を65%以上にする。→(64.4%)

### 【学びを支える教育環境の充実】

- 授業日において児童の8割以上が学習者端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。  
→(16.1%)
- 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を60%以上にする。→(65.8%)

### 【その他】

- 「子どもアンケート」で、『いのちを守る学習』を通して、自分の命は自分が守る力がついている」に対して、最も肯定的な「そのとおりだと思う」と回答する児童の割合を70%以上にする。  
→(61.5%)
- 「子どもアンケート」で、「人を大切にできる力がついている」に対して、最も肯定的な「そのとおりだと思う」と回答する児童の割合を57%以上にする。→(44.2%)
- 「保護者アンケート」(学校評価・外部アンケート)で「自分はサポーターの一員として、大空小をつくっている。」に対して、肯定的に回答する保護者の割合を50%以上にする。→(44.6%)

### 3 本年度の自己評価結果の総括

#### 【安全・安心な教育の推進】

- 小学校学力経年調査における「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合は 76.1%で目標を達成できなかったが「だいたいそのとおりだと思う」と回答した児童を含めた肯定的回答の割合は 95.1%と昨年度 91.6%より 3.5p 改善された。
- 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率が昨年度 1.85 から今年度 2.15 に増加した。目標は達成できなかったが、新規のケースでは保護者と状況を共有しており、関係機関とも連携して見守りを行っている。
- 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合は目標達成できた。理由として対象児童の登校日数がやや増加しており、状況の悪化は防げている。いずれのケースも保護者との関係は良好で、保護者と連携して対応できている。
- 小学校学力経年調査の「自分にはよいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合が 66.6%と目標達成できなかった。次年度は、コンサートや運動会に加え、作品展を新たに実施することで、様々な表現で児童が輝ける場を設定し、一人ひとりの自己肯定感が高まることに繋げていく。

#### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 小学校学力経年調査の「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の項目について、最も肯定的に答える児童の割合が 38.2%と目標にわずかに届かなかった。今後、話し合い活動に必要な話すこと、聞くことの向上に、学校全体で取り組む必要がある。
- 小学校学力経年調査における国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、5年生は 99.4 から 91.7 と 7.7p 減少したが、4年生は 3.3p、6年生は 2.0p 向上した。5年生の減少理由を分析し、来年度に活かしていきたい。
- 小学校学力経年調査における算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、4年生は 0.1p 向上したが、5年生は 17.7p、6年生は 0.1p 減少した。4年生、6年生はほぼ目標を達成できたといえるが、5年生が大きく減少しているため、朝学習や家庭学習も含め、授業内容の改善が必要である。
- 小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合は 84.3%と目標にわずかに届かなかった。
- 小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合は 73.4%と目標に届かなかった。
- 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的に回答する児童の割合は 64.4%と目標にわずかに届かなかった。

### 【学びを支える教育環境の充実】

- 授業日において児童の8割以上が学習者端末を活用した日数が、年間授業日の16.1%となり、低い水準ではあるが、活用状況の改善が伺えているため、より改善されるよう、システム化を進めていく。
- 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合は65.38%と目標を達成できた。

### 【その他】

- 「子どもアンケート」で、『いのちを守る学習』を通して、自分の命は自分が守る力がついている」に対して、最も肯定的な「そのとおりだと思う」と回答する児童の割合は61.5%であり、目標に届かなかったが、「だいたいそのとおりだと思う」と回答した児童を含めた肯定的回答の割合は93.6%（前年度比+5.3p）だった。
- 「子どもアンケート」で、「人を大切にできる力がついている」に対して、最も肯定的な「そのとおりだと思う」と回答する児童の割合を44.2%と大きく下回る結果となった。次年度は、コンサートや運動会に加え、作品展を新たに実施することで、様々な表現で児童が輝ける場を設定し、一人ひとりの自己肯定感が高まることに繋げていく。
- 「保護者アンケート」（学校評価・外部アンケート）で「自分はサポーターの一員として、大空小をつくっている。」に対して、肯定的に回答する保護者の割合は44.6%と目標に届かなかった。